奉崇敬五老峰、專可興行門風。是則瑩山盡未來際之本望也。佛言、篤信檀越得之時佛法不斷絶云々。又云、敬檀那可如佛、戒定慧解皆依檀那力而成就云々。然間瑩山今生佛法修行、依此檀越信心成就。故盡未來際以此本願主子々孫々、可爲當山大檀越大恩所。是故師檀和合而親作水魚昵、來際一如而可致骨肉思。用心如是者、實是可爲當山之師檀、縱使有難値難遇之事、必可生和合和睦之思。以此置文爲當山來際之龜鏡、爲住持檀越之眼目、以壹通寫兩通、師檀共加折目判形、壹通納寺庫、壹通持檀家、可爲師檀相互之後證。檀那崇敬此門徒之商議住持、住持之彼檀越之遺付子孫可崇重之。置文之狀如件。

元應元年己未十二月八日　　開闢　瑩山紹瑾　在判

本願檀主平氏女祖忍　在判

（洞谷山は永光寺の在る所にして、その地は去年十月廿五日海野信直の妻平氏女が瑩山紹瑾に寄進せしものなり。）

元應三年　辛酉
元亨元年　二月廿三日改元　紀元一九八一

三月廿八日。假揭

【永光寺中興雜記】

一七二

能登國永光寺、依爲曹洞濫觴、始被補出世之地、且爲後代修宇、且依勅問、宣旨如此。宜著朝衣、可奏祈長日不退之寶位者。天氣悉達（マヽ）如件。

元亨元辛酉三月廿八日　　經　作　在判

（本文書は、後醍醐天皇が鹿島郡永光寺を出世道場たらしめ給ひしことを言へり。然れども文中に言ふ天皇の瑩山紹瑾に勅問を賜ひしこと既に疑問たり。況や文意甚だしく透徹せざるものあるに於いてをや。恐らくは假作たるべし。）

四月十日。六波羅探題、能美郡山内莊地頭吉谷五郎の子息虎犬丸が得橋郷佐羅村に狼藉するを以て之を召喚す。

【南禪寺文書】　山城

一七三

南禪寺雜掌覺賢申、加賀國山内庄地頭吉谷五郎子息虎犬丸、號當國佐羅別宮神主、率神人等亂入寺領得橋郷内佐羅村、押領下地致追捕以下狼藉由事、院宣・西園寺入道太政大臣家御消息（實兼）副□（解カ）狀如此。子細見狀。早可被催上具書虎犬丸也。仍執達如件。

元亨元年四月十日　　陸奥（大佛維貞）守　在判

吉谷五郎殿

（佐羅別宮の雜掌貞淸が能美郡得橋郷佐羅村を押領せることは、是より先德治三年五月二日の條にも見えたり。）

○

【南禪寺文書】

一七四

南禪寺雜掌覺賢申、加賀國山内庄地頭吉谷五郎子息虎犬丸、號當國佐羅別宮神主、率神人等亂入寺領得橋郷内佐羅村、押領下地致追捕以下狼藉由事、重申狀具書如此。先度遣召文了。來月十日以前可被催上虎犬丸也。仍執達如件。

元亨元年五月十八日　　陸奥守　在判

吉谷地頭殿

○

【南禪寺文書】

一七五

南禪寺雜掌覺賢申、立子息虎犬丸於面、號加賀國佐羅別宮神主、語入神人等、於當寺領同國得橋郷内佐羅村、致苅田狼藉抑留年貢由事、重申狀具書如此。先度遣召文畢。來月十日以前可被參決也。仍執達如件。

元亨元年五月十八日　　陸奥守　在判

吉谷地頭殿

五月廿三日。後宇多法皇、山城南禪寺に能美郡得橋郷内府南社神主職を寄進し給ふ。

【南禪寺文書】　山城

一七六

南禪寺領加賀國得橋郷内府南社神主職事、賴時恐罪責令逐電云々。彼跡等悉付郷務、所被寄寺家也。早致管